

1-1 鴨川市への移住・定住について（山崎 温仁議員）

私は、長狭中学校の山崎 温仁です。

私は、鴨川市への移住・定住について質問します。

田舎暮らしの本による移住したい都道府県ランキングで、千葉県は第五位、鴨川市も人気の街となっています。

温暖な気候や海の幸、山の幸が豊富という点が魅力です。また、サーフィンの聖地や大きな総合病院があり、移住者への支援が充実していることも大きな理由の一つだと思います。

私たち家族も移住者として、鴨川の魅力を感じながら充実した生活を送っています。

しかしながら、人口減少による過疎化や財政難など、解決していくべき課題があることも事実だと思います。

鴨川市では、地域の魅力を活かし、より良い地域にしていくために、また、移住を推進していくために、今後どのような取り組みを行う予定ですか。

よろしくをお願いします。

1-2 給食の残飯をなくすために（笹生 由愛議員）

私は、長狭中学校の笹生 由愛です。

私は給食の残飯をなくすために二つ提案をしたいと思います。

一つ目は、平成二十五、二十六年に行っていた中学生が給食メニューを考案し、実際に提供する取り組みを再度行うことです。自分たちが携わったという事実によって、給食を残す人が少なくなるのではないのでしょうか。

二つ目は、児童生徒と給食センター、栄養士の方々と意見を交わし、よりよい給食を作るという提案です。普段、私たちは給食に携わる方との接点がありません。自分たちの要望を伝え、メニューを考えたり調理したりする人の想いを聞くことで、双方にとってベストな給食になると思います。そうすれば、自然と残飯も減っていくのではないのでしょうか。

鴨川の良さを活かし、残飯をなくせるように二つのことを提案したいと思います。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。

山崎温仁議員 市長答弁書

山崎議員からは「鴨川市への移住・定住について」のご質問をいただきました。

私も、温暖な気候や海の幸、山の幸が豊富であること、また、大きな総合病院があることが、本市が移住先として人気がある理由の一つと考えています。

移住を希望される方に本市をよく知って頂くため、令和三年八月には、市ホームページに移住・定住応援サイト「かも住(じゅう)」をオープンしました。

このサイトでは、本市の概要や移住者の声の紹介や、主に移住希望者向けに開催している「鴨川暮らしセミナー」の案内のほか、子育て世帯には、子育て応援サイト「のびのびカモッコ」を紹介するなど、移住者が必要とする情報を幅広く掲載しています。

今後も、移住希望者のニーズに応じていくため、市と、都市農村交流や商工・観光団体とで組織する「ふるさと回帰支援センター」と協力しながら、移住者を増やすための取組について、更なる工夫を加えていきます。

特に、小さいお子さんのいる家庭などの移住希望者には、本市が子育て環境も整った地域であることのPRに努力していきます。

議員ご指摘のとおり、人口減少による過疎化や財政難、コロナ禍など、本市には、解決していかなければならない課題がたくさんあります。このような厳しい状況の中でも、課題を一つずつ解決し、希望ある将来を切り開いていくことが必要です。そのため、城西国際大学観光学部の跡地活用や、遊休化した施設の活用をはじめ、地域活性化に向けたプロジェクトとして、スポーツ施設の充実、海辺の魅力づくりなどを進め、移住・定住先として選ばれる地域となるよう、「新しい鴨川づくり」に取り組んでいきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

笹生由愛議員 教育長答弁書

笹生(さそう)議員、建設的で前向きなご提案、ありがとうございます。

それでは、頂いたご提案に順次お答え致します。

まず、一つ目のご提案です。皆さんが給食メニューを主体的に考えて下さることは、すばらしいことと考えます。

皆さんが考えたメニューをもとに、栄養学の専門家である、給食センターの栄養教諭や栄養士が、皆さんと一緒に活動することで、栄養面でもしっかりとした献立を作ることができます。

皆さんと給食センター職員が、一緒に考えた献立を給食に取り入れ、市内の児童生徒の皆さんに食べて頂くことは、とても有意義なことです。ぜひ実

現させたいと考えております。

続いて二つ目のご提案についてです。

笹生議員のご提案を給食センターの職員に話した処、給食センター職員も、残さずに食べてほしいという思いで給食を作っていることを、児童生徒の皆さんに知ってもらいたいとのことでした。

また、実際に給食を食べている中学生の皆さんの素直な気持ちを知ること、給食センターにとって、とても大事な機会になります。このご提案もぜひ実現させましょう。

そして、一つ目、二つ目のご提案に取り組んだ内容を市内全ての小中学生にも知らせることで、各学校の残食が減らせることにつながってくればとてもうれしいことです。よろしくお願いします。

以上で登壇での答弁と致します。

2-1 鴨川市の医療費について（渡邊 橙瑚議員）

私は、鴨川中学校の渡邊 橙瑚です。

私は、鴨川市の医療費について質問します。

鴨川市では、中学生以下を対象にした、子ども医療費助成制度があります。

この制度は、子育て世代の経済的負担を軽減するため、医療費の自己負担分を助成するというものでとても良い制度だと思います。

しかしこの制度は0歳から中学三年生までしか適応されません。なぜ0歳から中学生が適応されるのでしょうか。

高校生も、まだ部活動などがある中で、ケガのリスクも大きいと思います。よって、この制度を高校生まで拡大していただけるととてもうれしいです。

そこで中学生までではなく、高校生まで制度の範囲を拡大することはできないでしょうか。市ではどのように考えているか教えていただきたいです。

よろしくお願いします。

2-2 スポーツ複合施設の設備と誘致について（山田 悠生議員）

私は、鴨川中学校の山田 悠生です。

私は、スポーツ複合施設の設備と誘致について質問します。

千葉県にあるプロ野球の球団「千葉ロッテマリーンズ」のキャンプ誘致が三年連続で今年も中止と聞きました。キャンプにおける約二～三億円にもなる経済効果だけではなく、こうしたプロスポーツへのあこがれや、身近さがなくなってしまうのは残念です。

こうしたことを考えると野球だけでなく色々なスポーツの大会や合宿を誘致してはいかがでしょうか。

鴨川市の陸上競技場は、とてもすばらしく、近くにサッカー場や野球場もあります。以前は、プロバスケットチームの千葉ジェッツも来ていたようですが、大きな体育館があれば様々なスポーツ団体の競技が可能になり、観光客も集められるのではないのでしょうか。

こうしたスポーツ複合施設での誘致計画や、様々なスポーツ団体の大会、合宿について今後どのような計画があるのかお考えを教えてください。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。

渡邊議員からは「鴨川市の医療費について」のご質問をいただきました。

鴨川市で実施している子ども医療費助成制度は、子どもたちの健全な成長と保護者の経済的負担の軽減のため実施しています。

ご質問の0歳から中学三年生を対象としているのは、概ね中学三年生までは、身体の基礎をつくる大切な成長段階であり、ケガや病気の際に早めに治療することが、今後の成長にとって重要だからです。

経済的な負担から受診を控えてしまうと、病気が重症化し成長が阻害され、健全な生活が送れなくなるリスクが高くなります。

そのようなことを無くし、健やかな成長を支援するために0歳児から中学三年生までを助成対象としています。

なお、この子ども医療費助成制度は、千葉県内の各市町村で実施しており、助成の対象年齢や医療機関を受診する場合の自己負担金の有無などは、各市町村で異なっています。

対象年齢を高校三年生までとしている市町村は、約半数となっているほか、医療機関を受診する場合の自己負担金は、概ね4分の1の市町村で無料となっています。

鴨川市では、対象年齢は中学三年生までですが、自己負担金は無料としており、手厚い支援をしています。

また、ご指摘のとおり、高校生の部活動などによるケガについては、そのリスクがあることは承知しておりますが、この場合は、学校が加入している保険で対応することとなっています。

しかしながら、それ以外の病気などの場合における経済的負担の軽減も考えていかなければならないと思っております。

鴨川市の子どもたちが、鴨川に生まれてよかった、鴨川で学んでよかったと思ってもらえるよう、助成対象年齢を高校生まで拡大することについて、今後、検討していきたいと考えております。

次に、山田議員からは「スポーツ複合施設の設備と誘致について」についてのご質問をいただきました。

総合運動施設は、スポーツ複合施設で、令和三年度では年間約七万五千人もの利用があります。

本市は温暖な気候を活かし、プロ野球だけではなく、大学や高校野球の強豪校の他、陸上競技やサッカーなどで多くの団体が合宿に訪れ、これらの方々が市内のホテル・旅館に宿泊したり、お店で飲食したり、物を購入をするなどで、市内の経済を潤すという、効果があります。この取組を「スポーツツーリズム」と呼んでいますが、これは、本市の特徴であり、私たちの誇りです。

山田議員が気づいた通り、千葉ロッテマリーンズの秋季キャンプの経済効果

に加え、一流の選手を、直接みたり、応援したりすることで、皆さんがスポーツを身近に感じるといった効果も期待されていますことから、これらが、見送られておりますことは、私も大変残念に思います。

本市では、これまで、総合運動施設を活かし、二〇二〇（にいぜろにいぜろ）東京オリンピックの女子サッカーオランダ代表やソフトボール女子日本代表のほか、恵まれた自然環境を活かし、自転車ロードレースチーム、サーフィン日本代表の合宿を受け入れたことがあり、このほか、亀田医療大学や鴨川中学校などは、車いすバスケットボールやバスケットボールの合宿に利用されたことがあります。

加えて、山田議員ご指摘のとおり、大きな体育館があれば、更に様々なスポーツ合宿の誘致が可能となり、大会を応援に来る観光客も集まることでしょう。大きな体育館を作ることは、すぐには叶いませんが、将来に希望をもって、心に留めて参りたいと思います。

市では、今後も、総合運動施設などの利用を積極的に働きかけることで、多くの方々が鴨川市に足を運んでくれるようにPRをしていきます。

また、スポーツによる交流の促進を図るため、フットサルコートと体育館を併設する、小湊さとうみ学校を整備し、この四月からは宿泊も出来るようになりますので、こうした取組の中で、更なる大会・合宿の誘致を進めていきます。加えて、快適な環境でお使い頂くため、施設を便利にしたり、壊れたところを直したりすることも、重要ですので、併せて取り組んでいきます。

以上で私からの答弁とさせていただきます。

3-1 鴨川市の活性化について（森吉 康太議員）

私は、安房東中学校の森吉 康太です。

私は、鴨川市の活性化について質問します。

地理の学習で、過疎の課題を抱えている市町村のことを学びました。

中には、若い人たちが都会へと出て行ってしまい、高齢者の割合が高まっているため、限界集落と呼ばれる場所も出てきていると聞きました。

今後、鴨川市で過疎化が急速に進んだ場合、どのようにその状況を改善していくのか。どのような地域の活性化を行っていくのか。

鴨川市のまち起こしの具体的な取組について教えていただきたいと思えます。

よろしく申し上げます。

3-2 今後の安房東中学校について（高木 寛介議員）

私は、安房東中学校の高木 寛介です。

私の質問は、今後の安房東中学校についてです。

少子化がますます進んでいく中で、年々、生徒数が減少してきている状況です。部活動のメンバーも集まらずに野球部が休部となっています。そのため、選択できる部も限られたものになっています。

このままでは、本校に入学する生徒がどんどん減って行くのではないかと心配になります。母校がなくなるのはとても悲しいことです。

近隣の学校で行われている小中一貫や他の中学校と合併する計画があるのかどうか、これから安房東中学校についての方向性をどのように考えているかを教えていただければと思います。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。

森吉康太議員 市長答弁書

森吉議員からは「鴨川市の活性化について」のご質問をいただきました。

鴨川市の人口は、国勢調査という五年に一度の調査では、令和二年が三万二千百十六人で、五年前、平成二十七年の三万三千九百三十二人から一千八百十六人も減少しています。

人口減少への対策としては、大きく二点に分けて取り組んでいます。

一点目は、山崎議員のご質問にもお答えしましたが、東京などの都心部からの移住者を受け入れることにより、人口増加を目指す取組です。

二点目は、少子化対策として結婚・妊娠・出産・育児の支援を行い、鴨川市で子どもを産み、育ててもらう取組です。

結婚や子どもを持ちたいと希望する方への支援、健やかな子どもの成長・発達への支援など、切れ目のない支援を充実させるとともに、地域全体で子育てを支えるため、市民・地域・企業・行政が協力し、子育て環境や子どもの学習環境の充実に取り組んでいます。

次に、地域活性化に向けた取組として、市が行っているさまざまな取組の中から、一つ、事例を紹介させていただきます。

森吉議員が住んでいる天津小湊地区は、郷土の偉人、日蓮聖人生誕の地であり、日蓮聖人ゆかりの誕生寺や清澄寺などのお寺をはじめ、多くの歴史文化遺産があります。

小湊地区では、旅館や地域の皆様、行政が力を合わせ、誕生寺を含む周辺地域の活性化のため、竹灯籠やライトアップなどのイベントを実施し、日蓮聖人生誕地としてのPRとイメージアップを図っています。これらのイベントの実施により、観光客や宿泊客の増加につなげ、地域の活性化に取り組んでいます。

人口減少に対するサポート・支援策の更なる充実に取り組むことに加え、地域の方々と協力して様々な取組を進めることで、過疎化を食い止め、地域の活性化につなげていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

高木寛介議員 教育長答弁書

高木議員、ご質問ありがとうございます。

「母校がなくなるのはとても悲しい」と述べられた、高木議員の母校を大切に思う素直な気持ちを真摯に受け止め、お答えさせていただきます。

ご質問にあります安房東中学校の今後の方向性ですが、ご心配されているような、他校との統合の計画は、現在のところございません。なお、高木議員がおっしゃるように、安房東中学校の生徒数は、十年前の一三一名から、現在の七十一名へと大きく減少していますが、皆さんが安心して登下校したり、学校生活を送ったりすることが出来るよう、地域の皆さんや先生方が温かな気持ち

で皆さんを見守っていることは、十年前と同じです。新型コロナウイルス感染症によって、昨年度まで、様々な行事が中止となっておりますが、地域の皆様と一緒にしていたヒジキ刈りや、地域の方々を招いて、皆さんの頑張りを見て頂いた運動会などの行事については、地域の方々や先生方とよく相談され、今後も、安房東中学校らしい伝統を築いてほしいと願っております。

また、生徒数が減少するという課題はございますが、安房東中学校の皆さんは、互いをよく知っているからこそ、温かな雰囲気やチームワークの良さがあると考えております。仲間や地域を大切にしてくれる皆さんが、大人になっても天津小湊地区を大切に思い、鴨川市で活躍してほしいと考えております。

以上、登壇での答弁と致します。

4-1 鴨川市の高速道路の整備について（鈴木 碧人議員）

私は、鴨川中学校の鈴木 碧人です。

私は、鴨川市の高速道路の整備について質問します。

鴨川市の交通の不便さを訴えている人がいるのが現状だと思います。

市民だけではなく、県外の人たちが鴨川市に来るのに一番悩んでいることは移動時間です。

高速道路を整備することによって、少しずつ鴨川市に訪れる人が増え経済的にも発達し、多くのメリットがあると思います。

また、高齢者ドライバーの方も多く、長い時間の移動は大変だと思います。

そのために、鴨川市に高速道路を整備してほしいと思っています。鴨川市民以外にとっても移動が便利になると思います。

今後、どのような考えがあるのでしょうか？

よろしくお願いします。

4-2 曾呂地区の交通手段について（石塚 光議員）

私は、鴨川中学校の石塚 光です。

私は、曾呂地区の交通手段について質問します。

私の住む曾呂地区は、交通手段が少ないように感じる事が多くあります。高校生になると、電車を利用して通学する人がいます。

しかし、曾呂地区を運行するバスの本数が少なく、最寄り駅を経由しないため、利用することができません。現在、曾呂地区に住む高校生のほとんどが家族に送迎をしてもらい通学しています。

近頃共働きの家庭が増えたことにより、家族の負担が大きくなり、志望する高校の選択肢が狭まっています。

私は電車の時間に合わせて発着するオンデマンド送迎サービスを提案します。これらについて市ではどのように考えていますか。

よろしくお願いします。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。

鈴木議員からは「鴨川市の高速道路の整備について」のご質問をいただきました。

はじめに、高速道路は、長距離を高速で安全に移動できる道路であります。激甚化・頻発化する大規模災害時に、避難や救助をはじめとし、物資供給等の応急活動のために緊急車両の通行を確保する必要がある「緊急輸送道路」としての役割も担っている道路であります。

次に、私達の住む千葉県南部の高速道路事情はどうなのかと見ますと、千葉市から富津市にかけて『館山自動車道』が、富津市から南房総市富浦までは『富津館山道路』、そして木更津市から横芝光町を連絡する『首都圏中央連絡自動車道』が整備されています。しかし、鴨川市から近くの高速度道路インターチェンジまでは、約四十分以上かかるなど、高速道路へのアクセスが良いとは言えない状況であります。

鈴木議員のご意見のとおり、鴨川市まで高速道路が整備されれば、市民だけでなく、鴨川市を訪れる方、また観光や産業等においても大変役立つものであると認識しておりますが、残念ながら、現時点において、鴨川市に高速道路が通る計画はありません。

しかしながら、国では高速道路を補う道路として「地域高規格道路」を指定し、概ね時速六十キロメートル以上で走行できる道路を計画しています。そして、この「地域高規格道路」は、館山市から鴨川市、更に、鴨川市からいすみ市、茂原市を經由し、首都圏中央連絡自動車道の茂原長南インターまでが指定されています。現在、茂原市と長南町の区間で工事が進められていますが、それ以外の区間では工事着手の目途は立っておりません。

このようなことから、「地域高規格道路」が早期に実現できるよう、周辺の市・町と連携して、県や国への要望を継続して行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

次に、石塚議員からは「曾呂地区の交通手段について」のご質問をいただきました。

議員ご指摘のとおり、現在、曾呂地区を運行ルートとしている交通手段は、コミュニティバス・南ルートのみとなっています。

曾呂地区では、もともと曾呂終点から太海駅までの路線バスが運行されていましたが、利用者が減少していたことから、民営の路線は廃止され、市がコミュニティバスの一部として、現在は曾呂終点から鴨川駅までの間を運行するようになっています。

最近では、自家用車の普及や人口の減少によって、コミュニティバスだけでなく、路線バスや鉄道などの公共交通全体で利用者が減少し、路線バスを維持す

るために市が出している補助金の額も、大きく増えてきています。このように、現在の公共交通をそのまま維持していくことは非常に難しくなっていますので、将来にわたって続けていくことができ、利用される方にとっても有効なものに改善、再編していく必要があります。

このため、バス・タクシー会社と相談しながら、どのように再編していくかについて、その方向性や、基本的な考え方をまとめました。コミュニティバスについては、市中心部では循環線に変えていくことを考えています。また、曾呂地区では、コミュニティバスの効率化、または、議員ご提案のデマンド交通に変えていくことも考えています。

デマンド交通とは、ルートやダイヤなどを定めず、利用者のニーズに応じて柔軟に運行する形態ですが、デマンド交通を望まれる方には高齢者が多く、通学時間帯の早朝と夕方・夜間に加え、昼間までの全ての時間帯をカバーするサービスの実現は、事業者の人手不足や、働き方改革が求められるようになっている現状から、難しい面もあることは、ご理解をいただきたいと思います。

以上、私からの答弁といたします。

5-1 鴨川中学校特別棟のエアコン設置について（安室 悠生議員）

私は、鴨川中学校の安室 悠生です。

私は、学校のエアコン設置について質問します。

技術や美術などの授業は、特別棟に移動して授業を受けています。

しかし、特別棟にエアコンがないため、夏は暑い中で授業を受けています。

僕たちは、特別棟で汗をかきながら授業を受けていて、大変だと感じています。近年の夏は年々暑くなってきているため、熱中症になる危険もあります。

なぜ特別棟にはエアコンがないのでしょうか。特別棟にもエアコンを設置していただきたいと考えています。もし、設置できない場合はエアコンに代わる涼しくなるようなものを設置していただきたいです。

それについて、市ではどのような対策を考えているか教えてください。

よろしく申し上げます。

5-2 給食での地産地消の取組とその割合について（山本 陽菜議員）

私は、鴨川中学校の山本 陽菜です。

私は、給食での地産地消の取組とその割合について質問します。

鴨川市は、給食での地場産業やフードセンターでの取扱い等、地産地消に積極的に取り組んでいると感じています。また、農産業の活性化や今後の持続可能な開発目標「SDGs」にも対応した取組だと考えています。

そこで、この取組について質問があります。それは、鴨川市の小中学校給食での地場産品の割合と目標値にどれ位達しているかという事です。

地場産品の割合が高まれば、市内の児童生徒にも地域の食文化や産業についてもっと知ってもらうことができ、食べ物や生産者への感謝の気持ちを育むことができると思います。

また、今以上に給食での地産地消の割合を高めるための取組などがあれば教えてください。

よろしく申し上げます。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。

特別棟のエアコン設置について、鴨川中を代表してのご質問ありがとうございます。それでは、安室（やすむろ）議員のご質問にお答えいたします。

現在、市内小中学校における普通教室のエアコン設置率は百パーセントですが、特別教室のエアコン設置数は、百七十三教室中七十教室であり、設置率は四十・五パーセントです。

なお、令和四年九月一日現在の千葉県内における小中学校特別教室の設置率は六十三・七パーセント、お隣の勝浦市は五十七・九パーセント、館山市は五十パーセントとなっています。

教育委員会では、皆さんが快適に、そして、勉強に運動に集中して頂けるような環境作りを目指しておりますが、市では、教育の外に、福祉、道路、水道、防災、産業、観光など、皆さんが安心・安全な生活をして頂くために沢山の予算を必要としています。これらは全て、市民の皆様方からの大切な税金で成り立っています。

夏の暑い中での授業は、大変だと承知しています。市内全小中学校全ての教室にエアコンを設置出来れば良いのですが、予算にも限りがございます。一斉にエアコンを設置することは難しい状況にありますので、毎年計画的に少しずつ設置出来るよう努力してまいります。なお、エアコンの設置が完了するまでの期間につきましては、大型の扇風機やスポットクーラーなどの措置も考えてまいりますので、ご理解下さいますよう、よろしく申し上げます。

次に、山本議員からは「給食での地産地消の取組とその割合について」のご質問をいただきました。

鴨川市の給食における令和三年度の地場産品の割合は、金額的には十七・九パーセントでしたが、目標値としては、六十パーセントを目指しています。参考値としましては、十一月十六日に皆さんに食べて頂いた、地産地消デーの給食が金額的に五十七・六パーセントでしたので、目標にかなり近い数字となっています。なお、具体的な地場産品については、給食だよりや食育だより等で、児童生徒の皆さんやご家庭にお知らせしておりますが、主なものとしては、まずは、お米があります。お米は百パーセントが鴨川産であり、ヒジキやレンコンなども、鴨川産を使用しています。

また、給食センターでは、多くの食材を地場産品にしたいと思っておりますが、皆さんに提供しております約二千三百食を、地場産品で揃えることが、今のところ難しい状況です。協力してくださる地元の農家の方々や、業者の方々を、今後、増やしていくことが大切だと考えております。なお、今年度は地元の団体の協力を得て、鴨川産のサツマイモや大根、長ネギなどの野菜も給食に取り入れておりますので、昨年度より地場産品の割合が高くなる予定です。今後も、

給食だよりや食育だよりで、地場産品の紹介をして参りますので、皆さんも、これまで以上に、給食食材に興味を持ち、おいしく楽しい給食の時間を過ごして下さい。

以上で登壇での答弁とします。